

## 知事と区市町村長との意見交換会(国立市)

令和2年9月23日(水)

15時40分～16時00分

○行政部長 それでは意見交換を始めさせていただきます。はじめに知事からお願いいたします。

○知事 本日も都庁までようこそお越しくださいました。コロナウイルスには去年の今頃、こういう形でもヒアリングさせていただいたわけですが、その頃は全くそういうこともなく、世の中変わるときは変わるものだなと改めて思うところでございます。

一方で、ウィズコロナの時代にどうあるべきなのか大きく問われているところで、新しい日常、サステナブル・リカバリーという新たな視点から、この構造改革をテコにして長期戦略の策定を進めているところでございます。

コロナ対策、そしてまたこれからの未来の東京を切り開くためにも、オール東京で立ち向かっていきたいと考えております。今日は率直な御意見等を伺わせていただければと存じます。よろしくお願いいたします。

○行政部長 それでは永見市長、御発言をお願いいたします。

○国立市長 こういう機会をつくっていただきまして、ありがとうございます。ちょうど出掛ける時に、知事の記者会見をやっているのを私のスマホにピンポンと鳴って、NHKのニュースのところをクリックしたら、総理大臣とお会いしてオリンピックの関係、コロナの関係等々をお話されているのが映っておりました。ああ、そうなんだなど。あ、これで遅れたのかな、なんて若干思いながら来たところです。

日頃より大変市政全般に渡りまして東京都の皆様、知事にはお世話になっております。この場をお借りしまして感謝を申し上げたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いしたいと思います。

私の方から所定の用紙をいただきまして既にお送りしておりますが、概略を5分間ということですので、簡単に御説明をさせていただきます。

一項目目は来年度予算に対する財政支援ということで、これはもうどこの自治体も問題で、ここに二つのことが書いてございますが、具体論は別にしまして、恐らく今年のこのコロナの影響というのは事業者の方々大変御苦労されていると思いますけれども、今度は給与収入の方々等々、今度は失業の問題とか様々なことが出てきまして、今年度の予算については比較的、今確認したんですが調定、あるいは収納というベースが順調にしておりますが、恐らく来年度予算は国立みたいに個人で多くもっている所は、必死瀕死の状態になるかなと思っております。

私は役人あがりですから、リーマンの時もバブルが弾けた時も財政を担当しておりましたが、これは東京都さんのレベルじゃなくて、国立レベルで億単位のレベルで税収が減るのは、本当に真っ青になります。そういう意味ではここに書いてありますように、財政支

援をどうしてもお願いをしたいなということが大きな題目でございます。

その中で個別的に言うと、人件費の問題が新型コロナウイルス感染症対策の緊急特別交付金、これ人件費が対象になってないんです。人件費が占める割合、様々な対策を打っていきますと会計年度任用職員ですか、そういう方々も多く雇用しながら事業を進めなきゃいけないので、人件費のウェイトが非常に深刻になってきます。

そういう意味ではここに書いてありますが、来年度以降については、特に総合交付金制度の制度改正等の中で、人件費分も枠に入れられるような改正ができれば非常に助かるなと思っているところです。

それから二点目は、従前よりの計画行政で進めている中で、ストックとしての学校であるとか、様々な施設がもう耐用年数が来ると。こういう中でこれはどうしても子供達のためにもやらなければいけない、給食センター等々ですね。こういう事業についての財政支援をお願いしたいというのが、このコロナ禍にあってもやっていかなければいけないことがあるんだということを、是非お願いをしたいと思います。

二番目が都と市の情報連携の問題で、これはもう散々言われていることですが、実はここに書いてあることをお読みいただければいいんですが、私はなかなか御高齢の方に情報が届かない。このあいだタウンミーティングをやりまして、コロナ禍においてかに生きるか、生きる知恵みたいなことを中心に、密にならないように、ほとんどが高齢の方が御参加いただいているんですね。1時間半から2時間ぐらい。医師会の副会長なんかにも出ていただいて、医療的な側面、それから状況、何に気を付けてどうなんだと。

そこで分かったことは、等しく御高齢の方は新聞報道を、テレビの報道を見ていて、数で圧倒されているんですね。恐怖心の塊が先立っていると。要するに注意深く生活しながら、正しく恐れるということがなかなかできなくて、情報が届きにくい。それはマストの情報はあるんですが、国立市内の個別の情報がなかなか把握できないものですから、発信できない。その時、私は国立市内の状況をこういう状況ですよ、持っている情報の中で実は市内にはクラスターも出てないし、あるいは市内で多く感染例もないんだというようなことを分かる範囲で言ったんですけど、是非その辺、保健所と情報連携を更に進められて、正しく恐れてそして活力ある社会を目指していく。このためには情報連携どうしても必要ですのでお願いをしたいなということを書いています。

それから定期的なPCR検査。これは私どもの方には定期的なところ、PCR検査やれやれって議会にも市民に広く相当言われるんです。ただ、今日陰性だから陰性証明の印籠をもって私は陰性ですよと言ったって、明日は大丈夫かどうか分からない。そうすると、ただし福祉だとか医療に関わっている方々にとってみれば、定期的な検査をやって、そして常にチェックをして、早めに危険性を排除していくことは重要だと思いますので、そのような体制を東京都さんともどもで作れるような、財政支援を含めてお願いをしたいと思います。

あと1分だけしゃべらせてください。5分間ということで。

最後は環境変化を見据えた街づくりということで、コロナでやはり今日も様々で出てい

ましたが、人口の流出入というのが、今で流入がとて多くなって、様々な形が出ていると思いますが、恐らく働き方改革のような形で、食職と住とその距離みたいな問題というのは大きく変わっていくのかなって思います。

そのときに最近のある住宅関係会社の情報で、家賃を払っても住みたい街はどこですかって言ったら本厚木が一番になった。神奈川県が出てくるみたいな。実は東京全体でそういう住み分けとか、そういうものをどういうふうなビジョンで進めていくのか。これは都心部と三多摩地域で利害相反の部分もあるんですが、是非東京都さんにそういう部分も含めて、新しい時代における働き方と街づくりのビジョンみたいな、23区に全部集中した事業体があって、そこに三多摩地域から通って帰っている。だんだんその近いタワーマンションがどんどん売れるというような構造から変化をせざるを得ない時代になっていますので、均衡を持ったようなそういう政策、平たく言えばそういうことを是非できるような環境を東京都とビジョンの中で一緒にできていくと思っていますので、よろしく願いしたい。すみません。ちょうど5分になりましたので終わります。

○行政部長 どうもありがとうございました。それでは知事からお願いいたします。

○知事 幾つか御指摘、また御要望ございました。今、お年寄りの方を対象に、結局どれぐらいのタウンミーティングを、どれぐらいの方に。

○国立市長 1回の人30人ぐらいしか集まれないので、これは数多くやっていかなきゃいけない。地域ごとに密にならない環境の中で、しかも1時間半、2時間膝を交えて。しかも状況だとか、実際に何人罹ったかではなくて、今、何人入院されていて、その方々重篤な状況なのか、どうなのかとか、どこで感染されたんだろうということを細かく整理していくと、お年寄りの方も安心して、じゃあ買い物出ても大丈夫なのよねとか、日常生活に移行できる。

ところが、国立の中で感染者数が僅か3、40人なんです。それでも私自身が中身を把握できない。こんな状況がありますので。

○知事 こういった御要望も踏まえて、週1回ですけど週報で連絡をさせていただいております。血液感染状況を把握し、また感染拡大防止のためにタイムリーに情報提供を努めて参りたいと思います。

また、最近家庭内での感染が増えていますので、一時は夜の街って言うんですけども、家庭内の感染でよくコップ、歯磨きのコップを分けてくださいとか、お食事のときは取り分けて召し上がってくださいって、細かい話ですけど、この細かいのが重要なので、そういったこと等もお伝えいただければというふうに思います。

○国立市長 私、実は家庭の中でもし僕が感染したらっていう、ただし症状がたいしたことがないんでというんで、私の部屋に私が隔離されたという条件でタオルは全部変える、手すりは全部毎日、一日3回消毒する、食事は紙のお皿に乗っけて部屋へ届けてもらってを、これを実験してみたんです。これ負担が大変ですよ、考えてみるより。

ですから、そうなる前の家庭内でお互いマスクしましょう、タオル別分けましょうということを肌身で感じています。是非そんなこともやってみたらと思っています。

**○知事** はい。ありがとうございます。それから高齢者、医療従事者に対するPCR検査、定期的なPCR検査ということではありますが、特養とか障害者の支援施設等については、この支援を9月の、今やっておりますけれども、補正予算に盛り込んで審議をいただいているところです。

市区町村がこの重症化リスク、感染拡大リスクの高い施設に対して、また独自にPCR検査等をされたり、また医療機関が検査機器を整備する際の支援を行っておりますので、この件については都の方にお尋ねいただければというふうに思います。

今、検査数もかなり増えてきておりますし、検査の中身も日進月歩と言いましょか、それでもPCR検査が正確な確率が高いというふうに聞いております。

それから産業の関係ですけれども、イノベーション創出環境の整備を図るということで、新たな街づくりの促進に取り組んでいることと、それからテレワーク、今お話ありました。国立にはちょうど東京テレワークモデルオフィスがありますので、これで衣食住近接を実現する、そのような環境づくりで、テレワークの普及に取り組んでいただける拠点が出来ているかと思えます。

それから定住の促進ということで、良好な住環境の形成、重要ですので、都営住宅の方の計画的な建て替え、これを進めて建て替え後の用地を活用して、市による複合公共施設の整備に御協力もしていきたいと思っています。

それから空き家の利用等も含めて、是非ともいつまでも市が元気な市でありますように、これから都としても連携していこうと思います。私からは以上ですけども、副知事の方から。

**○副知事** それでは財政について、私からお答えさせていただきます。財政環境が来年度以降ますます厳しくなることは、お話のとおりかと思えます。これは東京都にとっても同様のことでございますが、都としても市町村に対します財政支援の重要性というのは、改めて認識しているところでございます。

具体的には、まずお話のあった市町村総合交付金でございますけれども、これまでの充当対象経費の拡大等、制度の見直しを行ってございましたけれども、引き続き総合交付金を有効に御活用いただけるように適切に対応して参りたいと思えます。

また、学校整備等のお話でございますけれども、この辺りにつきましては、国に対しても全ての自治体に対して確実かつ十分な規模の財政支援を継続するように要望してきており、引き続き必要な支援、要望活動を続けて参りたいというふうに思っております。

それからコロナ関係で、若干知事の御発言に補足させていただきますと、保健所未設置市と都の直営保健所の情報交流というのは週報というのが出来たということでございますので、これまでも必要な情報交流はやってきたとは思いますが、ますますの密な情報交流というのは重要と思えますので、改めまして今市長からそのような御発言があったということ、福祉保健局の方にも伝えて参りたいと思っております。以上でございます。

**○国立市長** 時間がないので、一言だけ。大変丁寧な御回答いただきまして、ありがとうございました。

保健所の方々は、一生懸命仕事していただいている、大変忙しいということはもう重々承知しております。ですから、御無理をなかなか申し上げられないというものもあると思います。

ただ、保健所を設置していない国立市みたいなところだと、住民の方々へ対する情報、それから生活支援というのは、市町村の仕事であって、それから医療、感染予防は保健所の仕事だと。双方の情報を合わせて、保健所は生活支援できませんから、隔離しても生活支援できるわけではありませんので、双方の情報を合わせて市民が安心して暮らせる、都民が安心して暮らせる、こういうことを一つ目標に、是非保健局の方にもよろしくお伝えいただけたらと思いますので、よろしくをお願いします。

○行政部長 どうもありがとうございました。それでは最後に知事からお願いいたします。

○知事 冒頭に申し上げましたように、昨年こうやってやり取りをさせていただいたことを考えますと、コロナというのは全く景色を変えてしまったなど改めて思います。これまでの延長線ではなく、新しく変えるべきところは変えていくという、そういう分岐点だと思いますので、ちょうど長期戦略ビジョン等も策定をするところでもありますので、これらについてもこれからも連携を取らせていただいて、また意見や情報交換も引き続き伺っていきたいと考えております。どうぞよろしくをお願いいたします。御苦労様です。

○行政部長 それでは以上で終了いたします。本日は御多用のところ、どうもありがとうございました。